

みなさま、こんばんは。

本日は多くの方々に、在ブラジル梅田邦夫大使送別会へお集まり頂きましたことを心より感謝いたします。

梅田大使は就任から今日まで、皆が感嘆する存在であり続け、常駐外交使節団の長としてブラジルとの外交交渉や自国民の保護・監督など、任務を遂行されてきました。

常に、ブラジル日系社会に対して気を配ってくださり、両国の繁栄に深く尽力されてきました。梅田大使には、「感謝」の二文字しかありません。

私だけではなく、ここにいる全員が梅田大使に対する感謝の思いを胸にひめ、来場に行っていることと思います。

さて、ここで梅田大使の任期中に焦点をあて、お話をさせていただきます。

ブラジルにおける梅田大使の職務は、激動のはじまりでした。

2014年3月に着任して、まもなくサッカーワールドカップが開催され、皇室からご来伯された高円宮妃殿下はじめ日本サッカー代表を歓迎されました。その後、8月には安倍晋三内閣総理大臣が来伯され、大変内容の濃い1年となりました。

2015年には日本ブラジル外交関係樹立120周年記念を迎えました。

様々な催しが行われましたが、多くの人々の心と記憶に深く残る出来事として挙げられるのが、27年ぶりとなった秋篠宮同妃両殿下のご来伯。

梅田大使におかれましては、10月28日から11日間滞在された両殿下に付き添われ、ブラジルの各訪問地をご案内されました。

そして、今年2016年は、南米大陸で初となるリオデジャネイロオリンピックパラリンピックを迎えました。

リオデジャネイロオリンピックパラリンピックの開催は、2020年の自国開催となる東京オリンピックにつながる重要な大会であり、ブラジルにある日本大使館にとっては大きな責任と重要な意味を持っていました。その間に、梅田大使はわが国の政治や経済危機といった問題も研究し、理解を深めることに多くの時間を費やされたことと思います。

さて、ここからは私をもっとも記憶に残っている日系社会の活動に参加された大使のお姿について述べさせていただきます。今年の4月21日、サンパウロ州北西部に位置するリンス市で行われた、日本人リンス入植100周年記念式典に梅田大使はご臨席されました。

同日、大使はプロミッソン市にも足を運ばれ、移民の父である上塚周平の墓地を訪問されました。このプロミッソンへの訪問は、在ブラジル日本国大使として、初の訪問となり、同地では歴史的な出来事となりました。

その後、上塚周平公園、そして日本移民の手によって、1938年に建てられたクリスト・レイ教会を訪れました。クリスト・レイ教会訪問時、大使はとても熱心に話をお聞きになり、興味深く質問をされておりました。教会のルーツや歴史について知れた

いというお気持ちが強く印象に残っております。同時に日系社会にご理解を示してくださる心が何よりも嬉しかったです。

もう一つ、日系社会へのご理解を示して頂いた出来事として、思い出されますのが7月23日に開催されました、歌手・マルシア氏による慈善コンサートになります。このイベントは当会が日本文化の継承と普及のために推進する文化ホールプロジェクトを後押しとして、梅田大使の一助により実現することができ、見事成功に導くことができました。

在伯期間中、梅田大使は常にブラジル日系社会をサポートして下さり、励ましてくださる存在でした。大使を影ながら支えてこられたケイコ夫人も日系社会に対するあたたかい気持ちを常にお持ちでいらっしゃいました。

最後になりましたが、日系社会そしてブラジルに対して献身的な心で接して下さったことを心より感謝いたします。今後の梅田邦夫大使夫妻のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

また、この先、必ずどこかで会えることを心より信じております。本日まで、本当に有難うございました。